



北山田小だより

横浜市立北山田小学校 = 592-0061

夏休みとあいさつ

副校長 佐々木 誠

梅雨明けの便りも聞かれて、いよいよ夏本番。明日からは夏休みです。7月21日から8月28日まで39日間、元気で充実した毎日を過ごしてほしいと願っています。一年生にとっては小学校生活で初めての夏休みです。どのように過ごすか、これもまた一つの体験といえましょう。どの子にとってもこれからの生活は、これまでの学校を離れて家庭を中心に展開されます。家族の一員として毎日の生活を送る上での役割をしっかりと持って、責任を果たしながら自分の課題や遊びに取り組んでほしいと思います。

さて、先日7月5日(火)・6日(水)の二日間、東山田中学校区の地区懇談会が東山田中学校で開催されました。この会合で、夏休みの生活を送る上で、考えさせられたことがありましたので、そのことをお知らせしたいと思います。

テーマは「子どもたちのために、地域・学校ができること」～夏休みに向けて～です。

最近、夜間の公園や空き地で、子どもたちが群をなして禁じられた花火など他を省みない行動をしているのを見かけたという事例や過去の例が地域の人やパトロールをしている人から報告されました。そんな時どのように声かけをしていったらよいのかが主な話題となりました。

共同声明のようにはっきりと確認されたことは、地域や家庭で「あいさつ」を大事にしていこうということです。地域の方からは子どもたちと道端で出会った時に「こんにちは」とあいさつを交わしたことについて、実体験をもとにした具体例が話され、親や地域の大人からの声かけの大切さが指摘されました。あわせて、家庭内で「おはよう」「ただいま」「お帰り」「おやすみなさい」などの積極的な声かけの必要性も指摘されました。

つまり、「あいさつ」は地域の大人と子どもたちとの信頼関係を築き、問題行動を見かけた時など、声かけの場面では効力を発揮し、難しい問題や事件への発展を未然に防ぐことができるのではないかと思います。

この夏休み、ささやかなことかもしれませんが、今というタイミングを感じた大人から、ストレートに「あいさつ」の声かけを試み、親しみのメッセージを投げかけていったら親子の「関係」がより新鮮になり、希望に満ちて生き生きした生活空間を共有できるのではないかと思います。